

研究・調査報告書

報告書番号	担当
306	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
<p>Decrease in the prevalence of adolescent alcohol use and its possible causes in Japan: periodical nationwide cross-sectional surveys.</p> <p>日本における青少年の飲酒率のその可能性のある原因についての検討: 定期的全国横断調査</p>	
執筆者	
Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, Kanda H, Suzuki K, Higuchi S, Kaneita Y, Minowa M, Hayashi K.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Alcohol Clin Exp Res. 2009 Feb;33(2):247-54. Epub 2008 Nov 1.	
キーワード	
飲酒行動、アルコール摂取、思春期行動、日本	
要 旨	
<p>背景： 日本の青少年における飲酒率のトレンドと、2004年に観察された飲酒率の普及について可能性のある理由を評価した。</p> <p>方法： 全国横断調査は定期的に行われた。高校は、1996、2000年、および2004年に日本中で無作為抽出された。抽出された学校の全校生徒が調査対象とされた。無記名自記式質問紙は、1996年で115814人、2000年で106297人、2004年で102451人から回収された。質問内容は、学生と家族の飲酒率、友人がいない学生の割合、およびアルコール入手源であった。30日間に少なくとも1日は飲酒する学生は、現在飲酒者と定義した。</p> <p>結果： 2004年の飲酒率は、男女とも、全ての学年で1996年と2000年と比較して減少した。男子中学生の現在飲酒率（月単位の飲酒者）は、1996年の29.4%、2000年に29.0%、2004年に20.5%であったが、男子高校生は、49.7%と、48.7%と、36.2%であった。年少の、そして、年上の少女の中のそれぞれの普及は、24.0%と、25.5%と、20.0%と、40.8%と、42.1%と、34.1%でした。アルコール入手源は、家、店（コンビニエンスストア、スーパーマーケット、またはガソリンスタンド）、酒屋、およびバーであった。飲酒率減少の理由は、特に父親と兄という家族で飲酒する機会が減り、友人がいない学生の割合が増加したことだと考えられた。</p> <p>結論： 男性家族の飲酒機会の減少とアルコール入手源の制限は、思春期飲酒率の減少に関連していると考えられる。</p>	